

〔募集〕令和2年度 こころの病気等のある子どもへの教育支援(Co-MaMe:こまめ)セミナーの開催について

精神疾患・心身症、適応面や行動面の困難、発達障害の二次的障害等、こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援(Co-MaMe)についての理解を深め、実際の支援に役立てることを目的として、こころの病気等のある子どもへの教育支援(Co-MaMe:こまめ)セミナーを以下のとおり、開催いたします。

1. 日時

~~第1回 令和3年1月16日(土) 14:00～15:30~~ **定員になりましたので、締め切りました。**

第2回 令和3年1月30日(土) 14:00～15:30

(第1回目と第2回目の内容は同じです。)

たくさんの方々からお申し込みをいただきありがとうございました。

好評のため、第2回につきましては、定員を増やすこととしました。締め切り日までにお申し込みください。(事前申し込みは必要です。)

2. 対象

全国の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校で、こころの病気等のある児童生徒等の支援に関わっている教員

※対象以外の方で参加を希望される方は、E-mail(v-comames@nise.go.jp)までお問い合わせください。

3. 参加費と定員

参加費無料。(各回定員80名。事前申込制、先着順) **←第2回については定員を増やします。**

4. 開催方法

オンライン配信(Zoomを使用): オンライン配信に要する通信料等は、各自の負担となります。

5. 内容

- (1) はじめのあいさつ
- (2) 本セミナーの企画主旨
- (3) 講義「こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援(Co-MaMe)について」
- (4) 演習「こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援(Co-MaMe)の実際」
- (5) まとめ
- (6) 事務連絡、おわりのことば

6. 申込みについて

- ・E-mailに件名「第〇回 Co-MaMe セミナー参加申込み」と本文に「氏名、所属、連絡先の電話番号、メールアドレス」を記入し、セミナー申込み E-mail(v-comames@nise.go.jp)までお申込みください。
- ・申込みの締め切りは、第1回が1月14日(木)、第2回が1月28日(木)とさせていただきます。
- ・1人1回1通のお申込みをお願いします。なお、FAXでのお申込みは受付けておりません。
- ・1回目、2回目、両方にお申し込みいただいた方には、より多くの方に御参加いただけるよう、どちらか一方への参加をお願いする場合があります。

※**先着順で受付し、各回80名の定員で締め切らせていただきます。**なお、申込みを受理した方には、Co-MaMe セミナー「参加証」および、セミナーへの参加方法・資料についてのご案内を、お申込みいただいたメールアドレス宛にお送りいたします。

※参加証を受け取られた方には、セミナーへの参加方法についてのご案内をいたします。

※なお、研究活動の一環として、セミナーに参加された方にCo-MaMeの活用等についてのアンケート調査を行う予定ですので、御協力をよろしくお願いいたします。

こころの病気のある子どもの教育的ニーズ

心 理	社 会 性	学 習	身 体	学校生活	自己管理
不安・悩み (他 8 項目)	他者理解 (他 9 項目)	注意・集中 (他 7 項目)	感覚過敏 (他 4 項目)	見通し (他 2 項目)	病気の理解 (他 4 項目)

教育的ニーズ(40項目)についての
支援・配慮を分析して分類

連続性のある
多相的多階層支援

Continuous Multiphase and Multistage educational support

Co-MaMe(こまめ)

受容期

試行期

安定期

多階層(一つの項目内の連続性)

40. ストレスへの対処

多相的(項目間の関連性)

1. 不安・悩み

1. 不安・悩み (94)

課題

- 不安が強いため教室に入らず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- 見通しをもてずに自信がなく、新しい活動を嫌がる
- 心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある

受容期
(37)

* 気持ちを聞く(18)

- 話したい時にじっくり聴き、認める
- イライラすること等、感情を言葉にできるようにする

* 共感、理解する(4)

- その時にできていることをほめる
- 否定的な言葉を使わずに接する

* 無理なく好きな活動ができるようにする(15)

- 本人が好きな活動を行う
- 授業はゆっくり進めて会話を増やし、学習量を減らす
- 不安になりやすい場所、時間は避ける

試行期
(35)

* 相談しながら行えるようにする(15)

- 行ったことを振り返り、落ち着ける方法や対処の仕方を一緒に考える
- 不安や困難さを具体的に相談して共有していく

* スモールステップで行う学習設定(5)

- 一つ一つ見本を見せたり、練習したりしてから行う
- 少しずつ離れて一人で活動できるように見守る

* 見通しをもたせる(15)

- 学校のルール・日程、活動内容を板書や手元で視覚的に提示する
- 初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明する

* 目標を設定して学習(9)

- 目標を細かく設定し、達成したら変容に気付かせる
- 目標をクリアできない原因やその対策を考えさせる

安定期
(22)

* 対処方法を考えて取り組めるようにする(8)

- ロールプレイを行い、不適切な行動を体験・不適切な行動を考えて練習する
- あらかじめ対策を立てられるようなスキルを身につける

* 将来に向けて学習する(5)

- 進学についての知識を身につけられるようにする
- 実習で困った場合の対応方法を身につけられるようにする

項目内での支援の連続性【多階層】

教育的ニーズの一つの項目内において、
児童生徒の状態に応じて支援・配慮が
変化

項目間での支援の関連性【多相的】

教育的ニーズ項目間においても児童生徒
の状況に応じて関連しながら支援・配慮が
変化

Co-MaMe
の活用

- 児童生徒のアセスメント
- 教職員研修

- 支援・配慮の見通し・共通理解
- 不登校児童生徒への支援

- 医療・福祉等との共通ツール
- うつ病・適応障害への教育的対応

Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）詳細

研究の背景

- 全国の特別支援学校(病弱)、病弱・身体虚弱特別支援学級に在籍する児童生徒の病類別の割合は、精神疾患及び心身症が最も多い。
- 精神疾患及び心身症は「こころの病気」とも言われ、発達障害の二次的な障害や不登校などの適応面や行動面に困難を抱える児童生徒が含まれ、その多くは小・中学校や高等学校に在籍していると考えられる。

研究の目的

- 特別支援学校(病弱)での実践事例を収集、分析し、精神疾患及び心身症のある児童生徒への支援・配慮の有効な手立てを示す。
- 小・中学校や高等学校に在籍している発達障害の二次的な障害や不登校などの適応面や行動面に困難を抱える児童生徒への支援・配慮にも活用できる成果物を作成する。

教育的ニーズ

(40項目)

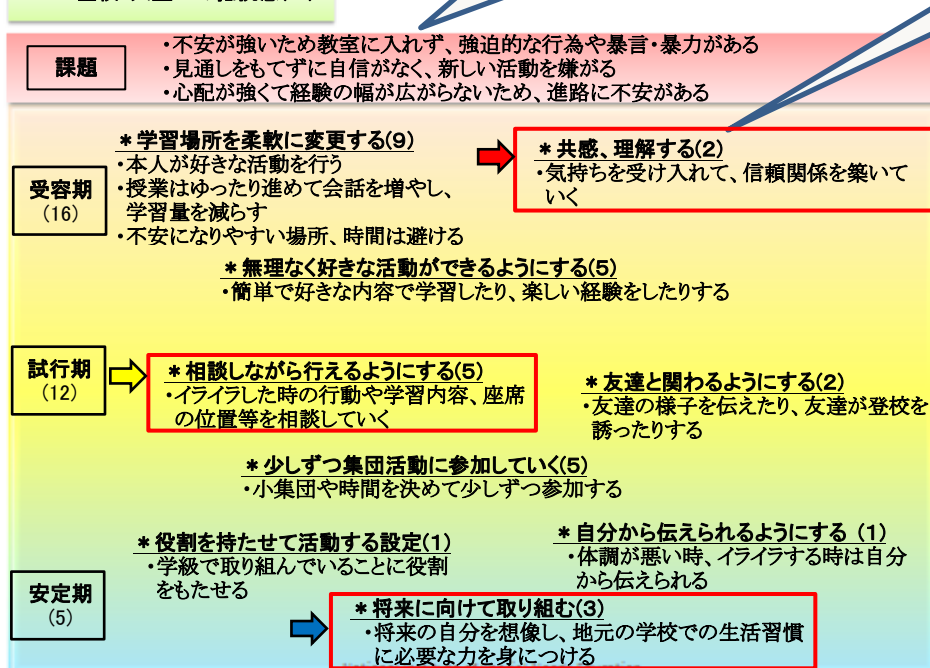
心 理	不安・悩み / 感情のコントロール / こだわり / 意欲・気力 / 自己理解 / 気持ちの表現 / 情緒の安定 / 気分の変動 / 自信
社 会 性	集団活動 / 社会のルールの理解 / コミュニケーションスキル / 同年代との関係 / 家族との関係 / 教師との関係 / 異性との関係 / 他者への信頼 / 他者への相談 / 他者理解
学 習	学習状況 / 処理能力 / 聞き取り・理解力 / 読み・書き / 記憶力 / 注意・集中 / 学習への意識 / 経験
身 体	身体症状・体調 / 巧緻性・動作・体力 / 多動性 / 感覚過敏
学校生活	見通し / 物の管理 / 登校・入室への抵抗感
自己管理	睡眠・生活リズム / 食事 / 服薬 / 病気の理解 / ストレスへの対処

教育的ニーズ40項目中の1つ

課題 各教育的ニーズの具体的な内容

支援・配慮の事例

35. 登校・入室への抵抗感(33)



受容期 教員(担任)から、気持ちを落ち着かせて共感や受容をしながら、活動する上での土台を築く段階

試行期 教員(担任)との関わりの中で、気持ちや行動の振り返りを行いながら、少しずつ取り組む段階

安定期 友達や社会との関わりの中で、自分にあった対処方法を見つけて行いながら、目標に向けて取り組む段階

※括弧内の数字は分析した事例の合計数

※課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）活用データ

アセスメントシート

心理	5/8	/
A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	○	
A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A3 こたわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)		
A4 意欲・気力 (目標がもてない、やる気がおきない)	○	
A5 自己理解 (何が辛いのか自分でも分からない)		
A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	◎	
A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

学習	5/8	/
C1 学習状況 (勉強の仕方が分からない)		
C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容が分からない)		
C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	○	
C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C8 経験 (生活経験が低い)		

学校生活	5/8	/
E1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E3 登校・入室への抵抗感 (学校に行きたくない、教室に入れない)	○	

社会性	5/8	/
B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B2 社会のルール理解 (学校や社会の規則を守れない、自分で変更する)		
B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B4 年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	○	
B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とトラブル)		
B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B8 他者への信頼 (人が信用できない、人と関わりたくない)	◎	
B9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

身体	5/8	/
D1 身体症状・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

自己管理	5/8	/
F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	○	
F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F3 服薬 (薬が手離せない、薬の管理が面倒)		
F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		

記入例

- ・アセスメントした日付を記入する。
- ・2回目のアセスメントは右欄に記入する。
- ・期間をおいて再度アセスメントすることで変容を確認できるようにする。
(2回目は必要に応じて利用)

- ・教育的ニーズ40項目について、対象児童生徒に当てはまるニーズについて、すべて「○」をする。

- ・「○」をしたニーズの中で、特に重要だと考えられる課題、もしくは優先的に取り組む課題について「◎」をする。

Co-MaMe
(こまめ)

「◎」をつけた教育的ニーズについて、すでに取り組んでいる支援・配慮を記入。

記入例

①「◎」をつけた教育的ニーズの記号と番号を左欄に、教育的ニーズを右欄に記入。

②「①」の教育的ニーズについて、内容を具体的に記入。

③「②」の内容について、支援・配慮等のねらい(目標)を記入。

④現在行っている支援・配慮を記入。
まだ取り組んでいない支援・配慮をCo-MaMeを参考にして記入。

整理用シート

項目	記入欄	
①教育的ニーズの項目	D1	身体症状・体調
②具体的な課題内容	不安な気持ちになると、かゆみや痛みを訴えて、学習に取り組めなくなる。	
③支援・配慮等のねらい	安心した気持ちで休みながら取り組むことで、痛み等と付き合いながら学習することができる。	
④教育的支援・配慮	【現在行っている取組】 【Co-MaMe の図を参考】 ・不安な気持ちや、痛みやかゆみについていつでも相談できるようにして、焦りを感じたり、罪悪感をもったりしないようにする。 【Co-MaMe の図を参考にした取組】 ・本人の状態から[受容期]であると考えられ、気持ちを落ち着かせて共感や受容をしながら支援・配慮を行う必要がある。 ・不安なことは何かじっくりと聞く。 ・運動を行い頭痛や腹痛から思考をそらす。	

インクルーシブ教育システム推進センター
土屋 忠之(研究代表)